

## 吹雪峠③

- (1) 天吉は、おまわりさんに色々なことを聞かれて困っていました。「この子はね、ひとみというんだよ。おらの妹だよ」「でもお前のお母さん、お腹大きくなかったろう」「さ、さよなら」
- (2) 「天吉の奴、返事に困って行ってしまったか。とにかく村長さんに相談をして、明日調べに行ってみよう。ひよつとすると、あの女の人の子供かもしれないぞ」大川巡査はそう考えていました。
- (3) 天吉は急いで峠の我が家へ帰ってきました。
- (4) 「おじさんおばさん大変だよ。あのね、駐在の大川さんがこれこれこうだよ」「ああ、それでお前なんて言っただの」「あの、一万円で買ってきたって言っちゃったよ」「呆れたよ、お前はとぼけているからね。困ったわ、どうしましょう」オトヨは、新作に相談を致しました。
- (5) 「あんたどうしたもんかね。拾った子だなんて言ったら、親に返せと言われるかもしれないよ」「うーん、せつかく俺たちの子として育てようと思っていたのに。とにかく、よく考えてみよう」
- (6) その夜、新作は一晩中寝ないで考えていました。「わしら夫婦には子供がない。せつかく我が子と思って育ててきたのに。この村から逃げ出すより、道は無いようだ」翌朝、新作は
- (7) 「なあオトヨ、この子連れて東京へ行けば、俺の仕事は何かあるだろう。俺はこの子をとられたくはないから、そう決心したんだ」「そうかい。それじゃあたしも付いて行くよ」
- (8) やがて手早く荷物をまとめると、新作一家は住み慣れた峠の我が家を出て行くのでありました。
- (9) 一家は峠を越えて隣村まで行って、そこから汽車に乗って東京へ行くつもりでした。その時であります。
- (10) 駐在の大川さんが村役場の人を連れて新作一家の家へとやってきました。「おや、張り紙がしてあるぞ」張り紙には「長々お世話になりました。ありがとうございました。東京へ行きます」と書かれてありました。「東京へ行ってしまったか、困ったものだな」果して…